

ふ風のた〜

クアキ 陸奥

ふと

は

は

紫川



菊酒の故実

加刺金に浅野川の水源が白菊の園とあり、
致歩を〜〜〜は菊を有する人致水成つ〜
り〜同士の〜む〜〜〜名櫃ニ〜
〜〜〜見事〜一枚とあり〜白菊〜
〜〜振舞〜是は心容の〜む〜
川水〜酒を製し〜さ〜けた家酒の滴り残〜
〜〜残まり

九人橋の奇事

加刺金兵城下小味降参との不武士所行し出る九人橋〜小橋
多き取をいもすは橋を十人並い渡り小参人の新入す残り
九人の新のころまゝり参人より九人並い渡り〜とら〜と
川

萬年氷

雷の〜山々如雲越前英濃二關小濤〜に附〜雷の安の付
事取〜と水〜山の水に隔り〜加刺と取川小流出〜一偏と
他小房す山内拾六箇村、同武能英郡、属を能系小云ふ〜と〜め
然前小國を繁田勝家の不知〜と法久同玄著政盛〜と〜り〜の〜

石川形吉野依良頼波市系亦備中尾原荒谷廿八ヶ村一圓小
繁田小泥の〜と〜成腹〜〜牛首〜と〜不〜論強の候扇成
三のい越謀と拙〜放火〜と拾里余の民亦一付、焼拂い其三言
女公よりと不殘殺害とあ不亡不〜成一草も見す曠野思〜たり
は〜りの古き世より殺降並いあい白言つ〜川〜名をの〜
多羊清子事なすれ、疑り〜谷の母も及り水畧た〜とあ〜む〜
是を〜る羊氷〜と〜随一カ石室之是を合む付、口臭を去り
眼にあつ不者、浪海を〜や〜に精力を補ふ〜と〜腹を付、脾胃の
勝を〜し便道を用〜と〜能毒あ〜と〜と國を忌部氏
〜法也